

多くの意見が出されました

第3回議会報告会から

第3回議会報告会については、今年2月1日発行の議会だよりに掲載しておりますが、各会場でもさまざまな意見・要望等は、議会内部で議論するもの、また執行部につきなぎ回答をもらったものなどがあります。

また、議会（正副委員長以上）と行政区長との意見交換会においても各地域で出された内容を報告しております。そこで今回は2月の議会だよりに掲載できなかった質問、意見等を抜粋し、報告します。

〔議会に対しての質問・意見〕

問 議会だよりの中で、審議した議案の結果一覧を見る機会が執行部の提案した議案に賛成しているが、十分な議論がなされていないのか。

答 八女市議会は、委員会制を採っており、それぞれの委員会が審査し、本会議にその結果が報告される。その後質疑、討論を経て採決している。即決



大淵地区（大淵基幹集落センター）

議案もあるが、最終的には議員一人ひとりの責任において賛否を表明している。

●次回は執行部に対する意見・要望を掲載いたします。

問 TOPP（環太平洋経済連携協定）について議会としてどう対応しているのか。

答 現段階でのTOPP参加は反対であり、議会として意見書を関係機関に提出している。

問 中山間地域の農業を守るため、議会、議員も頑張ってもらいたい。

答 中山間地の実情はよく理解している。今後とも執行部と一緒に知恵を出していきたい。予算審議等の中で充分議論していく。



光友地区（市民センター）

問 今回の水害において、県の取り組み状況について議会として情報はつかないのか。

答 議会としても地元選出の代議員、県議を通じ、

問 今回の災害を受けて、ほかの議会では議員の行政視察を中止したと聞く。八女市議会はどうか。

答 各委員会の判断でと

問 中山間地の人口状況からすると、24名位まで下げてもいいのではないか。

答 26名での選挙は一度も実施していない状況であり、現段階では定数削減について具体的な議論はしていない。

問 八女市の公債費（地方債）の額が大きと思う。健全財政運営になるように要望する。

答 議会として今後も厳しく監視し、その役割を果たしていく。

問 議会報告会のあり方が堅苦しい。内容も含め、検討してもらいたい。

答 今回出された意見などを参考にし、今後の報告会に生かしていきたい。

問 八女市の公債費（地方債）の額が大きと思う。健全財政運営になるように要望する。

答 議会として今後も厳しく監視し、その役割を果たしていく。

議会を広く住民に知らせるために

＜議会だより編集委員会研修報告 2月4日～5日＞

宮崎県高千穂町

紙面構成は、本市と変わりないが、裏表紙には特別企画として「シリーズ老舗」と題して、町の店舗（老舗）を取材し掲載している。

老舗が多い当市にとって大変に興味を引く紙面である。

特徴的なこととして

- ①週刊誌のように見出しを特に重視する。
- ②中学生でも読めるように分かりやすく書くように心がける。
- ③見出しや写真の説明には方言をできるだけ使わない。
- ④写真は極力動きのあるもの（人物が入っているもの）を使用し、記念写真的なものは使わない。

八女市にどう生かす

より多くの住民の方々に親しみを持って読んでいただくために、委員一人ひとりが最善の編集作業にあたっていくきたい。

また、議会だよりの独自性のためにも市広報と記事がダブルにならないように心がけていきたい。



高千穂町役場での研修風景

熊本県合志市

紙面編集のレイアウト色づかいなど、読みやすくなっており、一般質問紙面についても、当市と同じ2段組みであるが、紙面がすっきりしている。

記事の内容として、議会の動き、議員が出席した行事関係のお知らせなど、今後当市議会だよりも取り入れてもいいのではないかと思う。

円形議場で

傍聴者も密着した議会

＜議会運営委員会研修報告 1月24日～25日＞

静岡県掛川市

掛川市議会は、円形議場を有しており、議員・行政・傍聴者が同じ視線で参加できる議場である。

行政の主要施策として、小学校区を中心とした自治区の三役（区長・副区長・会計）と市の三役および部長との地区集会が行われており、質疑応答や地区の要望など会議の内容が「言いつばなし」「聞きつばなし」にならないよう『市長区長交流控帖』を作成し、次年度中央集会で配布、市民の声の在庫管理を行っている。市議会議員はオプザーバという立場で参加している。

静岡県藤枝市

藤枝市議会の特徴的なものは、予算及び決算特別委員会に全議員を半数ずつに振り分け（1年交代）、1人でも多くの議員が、市の事業を全般的・体系的にとらえた調査・審査が図られるような形態となっている。

また、行政が作成する『全事業の総点検シート』などを参考に、主要事業、新規及び長期継続



掛川市の円形議場

八女市にどう生かす

八女市議会は、毎年1回各地区において議会報告会を行っているが、行政側とのバランスも含めて方法や内容の検討が必要である。

また、予算・決算の審査の方法も執行部への提示など実施する手段として参考になった。是非、当市議会としても取り入れる方向で検討したい。

防災や減災への対策と備え

宮城県石巻市、岩手県釜石市、岩手県遠野市

＜総務文教常任委員会研修報告 1月29日～31日＞



津波で被災した門脇小学校

東日本大震災の被災地である宮城県石巻市及び、岩手県釜石市において、甚大な被害を受け、いまだ復旧のめどがたない被災地の行政の対応や住民の自立する姿をみてまわり、今後の地域の方向性を研修してきた。

昨年の九州北部豪雨などもそうであるが、地球規模で起こる災害は今後温暖化とともに多発化していくとみられる。一方で、地域における防災や減災の重要性が増している。水害と地震災害との対策の比較は違いすぎるが、住民との関わりや情報の共有化など行政の取るべき姿、安心と安全を提供するシステムの構築化は同じではないのか。また、このような観点から被災地に学ぶこと

は重要である。

これからやるべきことは防災よりも減災。今回の視察を通じて感じたことは広い海岸線を持つ三陸海岸で、全ての堤防をかさ上げするのは財政的にも困難。巨額の費用を費やして建設された釜石の防潮堤を始め、三陸のほとんどの防潮堤が津波で破壊された。人工的建造物で津波を「完全に防ぐのは不可能」だということは、被災地ですぐに感じた。いつどこでどんな災害が起きるか分からない。防災対策のコストは膨大であり、今後財政難が予想される



八女市にとっても防災対策の合理性が問われるのではないか。

また、災害対策の視点を防災から減災に切り替えるのが現実的であり、その対応が必要と考える。本市においては、地震・台風・そして昨年起こった豪雨。さまざまな専門家の意見がある中で素人の判断をせざるを得ない。しかし、現実的な災害を想定することはできる。十分に対策を考え、備えておく必要がある。

岩手県遠野市

最後に岩手県遠野市を視察した。

「で・くらす遠野」における活性化の取り組みについて

① 交流と定住の情報収集と発信

② Uターン・Jターン・Uターンの受け入れ支援とサポート

③ 定住に向けた支援相談の窓口

④ で・くらす遠野市民募集

1つ1つのプログラムに地域活性化の生き残り

手段としての努力を感じる。

遠野市民募集に関していえば、議会と執行部が連携し、東京における会員獲得など加入に奔走している。定住政策においては、窓口のワンストップ化がおこなわれている。確かに、行政における縦割り行政は利用する側にとっては、不自由極まりない。住みたいという人がいれば、支援や指導のもと何の抵抗もなく、そこに住めるといことが大事である。

八女市にどう生かす

この研修を終え、災害発生直後の避難方法、救援方法、ボランティアの受け入れ方法など、日常の中に取り入れる防災訓練や防災意識啓発を含む小さなノウハウの蓄積が官民ともに大切だと考えさせられた。特に地域における消防団の存在は大きい。しかし、この活動の場での悲劇も少なくなかった。地域に課せられた課題はあまりにも大きすぎる。一つ一つ積み木を組むような心構えを持つことが必要である。

紀伊半島大水害からの復旧・復興

＜建設経済常任委員会研修報告 1月29日～31日＞

平成25年1月29日～31日に和歌山県新宮市、奈良県十津川村、三重県熊野市の2市1村において、平成23年9月に発生した台風12号被害における復旧・復興調査を行った。



十津川村の治山事業

和歌山県新宮市

降雨量1828mm(9月2日～4日)年間降雨量の50%に達した。(死者13名・行方不明者1名)

熊野川上流に洪水調整の目的を持たない11基の発電用ダムがあり、毎秒約2万トンのダムの放流により川が氾濫し、災害になったと予想されることから、市議会としてダムの操作規定の見直しの要望書を国、県に提出された。

農地・農業用施設災害激甚災指定補助率として農地98.3%、農業用施設99.8%となる。

商工業対策として、地域経済全体の低迷がみられるため、寄附金をもとに災害復興プレミアム付商品券を2回発行されている。

奈良県十津川村

復旧・復興における課題

- ①入札の不成立の増
建設業者数の減と主任技術者不足
- ②道路寸断により、現状把握に日数を要する
- ③人員不足により査定までの日数の弾力的運用と査定が簡略化が必要

②災害復旧の3ヶ年以内での完了が困難。

災害初年度は工事着工が困難のため、実質2年度の終了を要求されるが、河川は取水時期工事制限があり、他工事による着手の遅れなどによる。

③災害査定までの日数の不足

1、ライフラインまでのタイムロス

- ①安全・安心に暮らせる村
- ②高齢者対策の中で、集団ブロックを形成し新集落づくりを目指す。
- ③環境にこだわる村を目指す。
- ④訪れてみたくなる村を目指す。

三重県熊野市

降雨量1600mm(9月2日～4日)

24時間最大降雨量

1138mm

最大時間降雨量

141mm

八女市にどう生かす

現在、八女市でも復旧工事を進めているが、災害箇所数が1136ヶ所と余りにも多く不落落箇所も出ている中、周辺地域からの参入をも促し、1日でも早い復旧を計るべきである。

特に、本年梅雨時期での2次災害が予想される箇所も多く市民の安全・安心のため、早急な対策が必要である。

また、八女市の災害査定が莫大な箇所数にもかかわらず、完了できたことはまさに奇跡といえる。職員の努力に感謝したい。

今後、市当局・議会・市民が一体となり、より早急な復旧・復興を計るべきである。